

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 11 時 00 分）

---

◇ 長 嶋 精 一 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位 2 番、長嶋精一君。

（3 番 長嶋精一君 登壇）

○3 番（長嶋精一君） 私からは大きな 3 つの質問・提案をしたいと思います。

まず、大きな 1 つ目として地方版総合戦略についてでございます。その内の 1 つ目、策定内容と重点推進項目は何かでございますが、先ほど藤井議員の質問に対して町長が策定内容については答えております。重複は避けたいと思います。したがって、重点推進項目について答えていただきたいと思います。

2 つ目、内容は想像どおりに多岐にわたっているわけですが、これでは限られた予算、人員、時間の中で無理があり、虻蜂取らずになり結局何もできなかったということに私はなりかねないと思います。相当の税金を投入するわけですから、これでは困るわけです。町長、どうですか。

3 つ目、10 年後には松崎町の人口は 6000 人を切ると言われています。その予測どおりにこのまま人口減少が続くとしたならば、そして役場の体制が人員を含めて現状を維持するとしたならば、住民に降りかかってくる不利益というものはどういうものが考えられるか。

町長、想像力を大いに発揮して答えていただきたいと思います。例えていうと、例えば、住民税はどうなのか、固定資産税はどうなのか、水道料金はどうか、社会保険料は引き上げなくてもいいのか、そこら辺を答えていただきたいと思います。

次に大きな 2 つ目、災害対策についてでございます。特に災害対策の水道施設について。昨年 11 月に議員 4 名と生活環境課長それから職員の皆さん方と水道施設を回ったわけでございます。耐用年数を超えている、耐用年数に近い相当老朽化した施設が見受けられました。だいぶ見受けられました。災害がきて命が助かったと、しかしながら水がなかなか出なかったと、こなかったということでは困るわけです。早めの対応が望まれると思いますが、いかがでしょうか。

また、計画によりますと石部地区で井戸の掘削を計画していると聞いています。私は、より

確実な今までの施設の更新の方がいいのではないかと思います、いかがでしょうか。

次に大きな3つ目、1市5町共同化について。この共同化については、県が主体となってこの4月から消費生活センター等を立ち上げるわけです。しかしながら、私は今後については県主導ではなくて、それぞれの市町が現実的な共同案を出した方がいいのではないかと、それが筋ではないかと私は思っております。

これからの人口減少、縮小社会であります。縮小社会というのは、費用の分担、費用を分かち合う社会であると思っております。

そういう観点から1つ目、水道施設について、例えば香川県は16の市町が統合し、浄水場の数を減らして、水道料金の値上げを抑制するという対策を検討しているとのことでもあります。この方策を参考にして長期ビジョンでわが町と隣町の西伊豆町で共同で検討できないか。

2つ目、沼津方面への病院・・・、重篤な患者の方々です、へのバス運行事業についてを共同化できないか。これについては健康福祉課長の方が東海バスとハードネゴをして、順天堂病院への直通バスがほぼ出る形でめどがついたと聞いております。これは非常にいいことだと私は思います。これにプラスして、共同化することによって幅がさらに広がるのではないかと私は思っております。いかがでしょうか。

3つ目、鳥獣被害対策を共同化できないかということでもあります。現在は賀茂農林事務所中心に、あるいはJAさんも協力してやっているということを知っております。さらにそれにプラスすること、私が提案したいのは、狩猟の人たちは高齢化によりましてどんどん減っております。したがって、私が考えておりますのは、例えば、今月の10日間は西伊豆町を徹底的に集まってやるよと、次の来月の10日間は西伊豆町をやる、次は南伊豆町をやるというような単独の町では人が少ないかもしれないけれども、抱き合わせてやるとかなりの人数になると思えます。

それで、そういいますと批判が出ます。「その町にはその町の特徴の起伏があるんだと、それはほかの町の人が云ったってだめなんだ」とすぐそう言いますが、そうでないと思います。彼らは非常にその収獲能力というのがあると思います。それについていかがでしょうかということをお願いしたいと思います。

私からの壇上での質問、提案は以上です。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 長嶋精一議員の一般質問にお答えします。

1. 地方版総合戦略について。①「策定内容と重点推進項目は何か」についてです。

地方版総合戦略につきましては、先ほどの藤井議員の一般質問の中でもお答えしておりますが、基本理念を「松崎に暮らすひとびとの喜びが多くの人々を誘うまちづくり」とし、環境・文化の循環、ひと・経済の循環、子育て・教育の循環、健康長寿・安心社会の循環の4つの循環の中で事業を展開していくことにしております。

環境・文化の循環では、「石部棚田」や「なまこ壁の建造物」など自然・文化的資源の保全・活用、ひと・経済の循環では、産業を牽引する人材の育成や地場産業の創生・育成を上げていきます。

また子育て・教育の循環では、子育てを社会で支える環境づくりや教育の充実による人材育成、健康長寿・安心社会の循環では、生涯現役のライフスタイルの実現や防災対策の拡充による定住促進を上げています。

②「施策が多岐にわたるとしたなら、限られた人員・予算の中では無理があり「虻蜂取らず」になるのではないかと危惧するがどうか」についてです。

総合戦略では、平成27年度から平成31年までの5か年で施策ごとに数値目標を設定し、事業を進め、毎年その達成状況は「松崎町日本で最も美しい村推進委員会」で検証していくこととしており、必要に応じて見直し、改正をしております。

総合戦略の期間は国や県との整合性を持たせ、5年で設定してありますが、人口減少問題の克服は5年で解決するものではなく、長期にわたり継続した取り組みが必要となります。

また、事業については実施年度や財源、体制を勘案しながら優先順位を付けて実施することとなりますが、平成28年度においては新規事業としてシェアオフィス交流拠点施設の整備・活用に663万円、入学・就職時の節目の子育て支援事業として447万円、商店街ポケットパークの足湯整備に200万円などを予算措置し、町内での賑わい創出を図るとともに子育て支援、安全・安心の基盤整備を図っております。

なお、事業につきましては行政だけで全てを進められるものではなく、住民、団体、企業、大学、金融機関などとも連携・役割分担をしながら、取り組んでまいりたいと考えております。

③「人口減少が続き、行政体制が変わらないと仮定した場合、住民にとってどのような不利益が顕在化すると思うか。例、増税、水道料金、温泉料金、国民健康保険料等の値上げは考えられないか」についてです。

平成26年5月に日本創成会議が示した人口移動が収束しない場合の、2040年（平成52年）の松崎町の人口は4152人となり、消滅する可能性の高い自治体に上げられております。

人口減少の影響は、若者の減少で地域活力が損なわれることや介護保険や給付などへの負担

が増大すること、地方税収や使用料・手数料が減少し、公共サービスの低下や公共施設の休・廃止、事業の中止などが考えられ、これまでどおりのサービス水準を維持し、事業などを進めていくためには負担が増大することが考えられます。

こうした中で、人口規模や状況に合わせて行政体制も変えていかなければならないと認識しておりますが、何よりも先ず人口減少の克服をオール松崎で取り組んでまいりたいと考えております。

2. 災害対策について水道施設。「耐用年数に近い水道施設がある、早めの対応がのぞまれるがどうか。また石部地区の井戸掘削より確実性のある老朽施設の更新をすすめるがどうか」についてです。

災害対策においてライフラインの根幹である水道事業の重要性は言うまでもありません。1月に九州地方で起きた水道管凍結事故では水道の有難さを改めて感じた方は多かったことと思います。

当町の水道施設につきましては、耐用年数を超えた施設もあり、今後、改修費用の増加が想定されることから、将来にわたり事業を安定的に継続するため経営戦略の策定に取り組む中で施設の更新整備計画を具体的に検討してまいりたいと思います。

法定耐用年数については、一つの目安であり耐用年数が来たから更新しなければならないということではありませんが、日常の維持管理点検の中で漏水状況やポンプ等の異常を把握し、適切に対応してまいります。

また、地下水源の開発がどうなるかによって、今後の施設整備や老朽管更新計画も大きく変わってきますので、新井戸整備については事業費や工法、取水の可能性等の総合的な検討を行い判断していきたいと思います。

なお、新井戸整備を断念した場合は、既存施設の更新改良計画を立てて進めていくこととなります。

3. 1市5町共同化について。①「水道施設について香川県は16市町が統合し浄水場の数を減らし、水道料金値上げを抑制する方策を検討している。この方策を長期ビジョンとして松崎町、西伊豆町で検討できないか」についてです。

水道事業を取り巻く環境は、老朽化で水道管などの維持改修費がかさむ一方、人口減で料金収入が減り、年々厳しい状況にあります。このような状況の中、収益改善・人材確保・施設更新への対応など水道が抱える課題を解決する有効な手段の一つが水道事業の広域化であると言われております。

しかし、具体的に賀茂近隣市町との共同化を考えた時に、中山間地を抱える地形的条件は事業統合への支障となると思われます。現在、県内を5ブロックに分けて県主催の水道事業地域懇談会を開催し、賀茂郡1市5町で共同化等に向けた課題を出し合い意見交換を行っているところでございます。

②「沼津方面病院へのバス運行事業を共同化できないか」についてです。

通院の交通手段を確保することは重要なこととありますので、病院通院状況調査等を行った上で西伊豆東海バスと協議を進めてきました。

その結果、75歳以上の方と運転免許返納者等に限定されていた寿乗車券を、妊婦健診による通院や、医師の紹介状による他市町への通院なども利用できるよう調整するとともに、西伊豆東海バス管内だけではなく、東海バス運行区域全区間を約60パーセントオフ料金で乗車できるようにいたします。

このことにより三島行き特急バスを利用し、長岡で下車した場合、自己負担が約1000円となり、他市町の直通バスと比較しても利用者負担がだいぶ軽減できると思われます。

また賀茂圏域の市町の協力で、南伊豆発順天堂病院行のバスについても乗車可能となりますが、今後は、日一便程度、松崎発、修善寺経由で伊豆の国市の総合病院へのバス運行ができるよう地域交通会議で検討していただくよう調整しております。

③「鳥獣被害対策を共同化できないか。JAとの連携も含め」についてであります。

鳥獣被害対策については、JA伊豆太陽農協が事務局となっている「伊豆地域鳥獣害対策連絡会」において、県及び郡下各市町や猟友会が情報等の共有化を持ち、また許可捕獲時に使用するデジタル無線機の共同購入計画も現在進めています。さらに毎年の狩猟期間中には、持ち回りで郡内猟友会が各市町の一定区域に参集しての合同狩猟や期間外での県管理捕獲や市町による許可捕獲を行っています。このように、行政、猟友会、事業者が連携を密にして鳥獣被害対策に取り組んでいますが、今後も引き続き各市町等が連携・共同化できるものは積極的に進めていく所存でございます。以上でございます。

○3番（長嶋精一君） 総合戦略について・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 長嶋君、申し上げます。一問一答ですか。

○3番（長嶋精一君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○3番（長嶋精一君） 町長、総合戦略の策定の中で、私は、町長にこれだけは絶対やるんだ、やりたいんだというような強い信念、考えを聞きたいんですね。そうでないとその場的な計画

になって、結局何もできないことになりかねないと先ほど言いましたけれども。これだけはやりたいんだということを宣言をしていただきたいということと、それと関連しますので、私は12月の定例会で33名の策定メンバー、この方々は日本一の美しい村推進メンバーですね。産官学金労言の方々でございますが、33名の策定メンバーがどういう意見を出して、そして、その意見が反映されるようにしていただきたいというふうに申し上げました。

そこで、33名のメンバーからどのような意見が出て、策定メンバーの意見が今回のこの総合戦略にどう反映したのか、教えていただきたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 最初の方の質問ですけれども、先ほど申したとおり松崎町はこれから本当に生きていくためには、定住促進と交流人口の確保に向けて、あと、差別化できる魅力をいかに高めるかということに尽きると思います。それにはやっぱり地域の経済性と個性の明確化と地域デザイン、これだと思っています。

それで、これができれば松崎はほかの地域とは違うよというようなことが明確にできると思いますので、そのようなことを中心に話をしていくわけで、そしてやっぱり雇用を増やさなければいかんということで、やっぱり松崎町らしい・・・、こんなことを言うとちょっと言葉はきかないですけど、儲ける仕組みを考えていかないとだめだということが中心になってきます。あとは課長が答えます。

○企画観光課長（山本 公君） 今、委員の皆さんの意見を一つずつ全部ご披露するということはちょっとできないですけれども、やはり松崎らしい取り組み、全国どこでも同じようなものではなく、松崎らしい取り組みを盛り込んで欲しいというようなことの中で、やはりその部分を明確にしていかなければならないということで、なまこ壁ですとか、あるいは石部の棚田ですとか、あるいは桜葉の振興ですとか、そういう部分をちょっと明確にさせていただいたことがございます。

それから、委員だけでなくアンケートなんかも当然行ったりとか、あるいはヒアリングなんかも実施させていただいています。そういう中で、やはり働き場の関係を創出しなければならぬというようなところがあったり、子育ての支援についてもお願いしたいというようなこともあったり、そういう諸々のものを加味しながら作っているわけでございますけれども。全て一つひとつということではなかなかいま申し上げることはできませんけれども、そのような経過を経て策定されてきているということでご理解をいただければと思います。

○3番（長嶋精一君） 一人ひとりの意見というのは難しいのはわかります。ただ、雰囲気というか聞いてみますと、やはり会議の回数自体がそもそも少なかったということ、したがって当

然盛り上がりが少ないと・・・、つまり進め方に問題があったのではないかと私は思っております。やっぱり12月の定例会で言ったように、コンサルタント中心にもう既にでき上がっていて、それに対して33名のメンバーが追認をしたということが明らかだったなど感じるんですね。

私は、この自分の町の将来のことですから、自分の頭でしっかり考えて策定すべきだったと思います。町長、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 100パーセントとは言えないと思います。若干回数も少なかったし、皆さんの意見が本当に集約されているのかなというようなところがございました。

ただ松崎町の場合は、昔は百人委員会とか何とかがあつて、いろいろやりましたけれども、最終的には自分たちが考えている意見に集約されるというような感じできましたので、いろいろ反省はあると思いますけれども、松崎なりにそれなりの進め方をしてきたのではないかなと思っています。

○3番（長嶋精一君） 私は、町政に限らず、民間企業の運営でもトップが大切な方針を出すというのは、最初からトップが自らの考え、案というものを、素地を作っていく。その上で部下の考え、コンサルの考えを聞いて取捨選択をして、最終的な考え方を作っていくと、軌道修正しながら作っていくという形でなければいけないと思っています。

つまり最初に町長の考え方がなければいけない、最初に。そのような順序と全く逆にコンサルの意見がでる。部下の意見がでる。それらに対して町長が選ぶというのは、これは町長としていかがなものかと私は思うんです。いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 町長の意見がうんぬんと言いますが、私は、町長になった時から松崎町は昭和54年に花とロマンのふる里づくりということで、まちづくりをスタートしたわけですが、花というのは、その当時依田さんに聞くと、まちを彩る花と郷土愛、心に咲く花、ロマンというのは、その地域特有の伝統、そしてロマンの里というのは、その地域の人々が築き上げてきた環境、これでまちづくりをして、花とロマンのふる里というのは、本当に日本全国、花とロマンのふる里といえば松崎町だということが伝わってきたわけですね。

それでスケッチの町宣言をやったり、世界で一番富士山がきれいに見える町宣言をやりました。それで「日本で最も美しい村」連合に50番目に入ったわけですが、なんで「日本で最も美しい村」連合に入ったかという、「日本で最も美しい村」連合の目標というのが、世襲財産を使って地域の皆さんの力を借りて経済的に自立するというので、松崎の考えと同じことだということで。私はこの美しい村連合に入って、これを何回も皆さんに言っているわけですから、松崎町長の考えというのは、はじめから一貫しているわけで総合戦略の中身もその

中に入っているわけですから、本当に私の考えはこういうことですから、これでやっていきたいなと総合戦略をもっているところでございます。

○3番（長嶋精一君） 町長、町政の運営というのは、企業経営と全く同じだと思います。企業経営も財政運営も過去の歴史から学ぶ点が多いですね。

依田敬一さんという傑出した町長もおられました。その歴史に学ぶことは必要だと思います。私がここで言いたいことは、過去の歴史、特に戦、戦いです。戦いをしようと言っているんじゃないんです。戦が非常に参考になるんですね。弱い組織が大きな敵、相手と立ち向かう時には、わが方の構成員、戦力、構成員の心、ハートまで含めていかにその力を結集させ、その結集した力を、相手の弱いところを突いていくと、これが戦いなんですね。

織田信長の、あの弱小軍団だった織田信長が桶狭間の戦いで破った、今川家を破った、典型的であると私は思うわけです。

逆に、戦いで一番まずいのは戦力の分散であります。私は、松崎町総合戦略というのはあれもやる、これもやる、あっちに手を出す、こっちにも手を出すというまさしく戦力の分散ではないかと思っているわけです。必死になって町を立て直さなければならないという職員がいたとしたらば・・・、いると思います。そういう人たちは迷いますよ。下手をすると病気にもなりますよ、これを真剣にやっていたら。町長、どう思いますか。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど藤井議員の時にお話をしましたけれども、地方創生に向けた松崎町役場の職員の中で考えている骨子があるわけですね。それにはやっぱり皆さんと話し合っ、産業の振興と社会保障と、この2本の柱を中心にいこうと。それに産業振興の中に「ものづくりとひとづくり」、そしてもう一つは「ものづかいとまちづかい」、社会保障の中でも健康長寿と子育て支援、この2つの柱の4つを中心に総合戦略の中に入っているわけですがけれども、「ものづくり、ひとづくり」についてちょっとお話ししますが、ちょっと4分かかるけど、いいですか。

（長嶋議員「いいよ」と呼ぶ）

○町長（齋藤文彦君） これはやっぱり農林水産業の再生ですよ。稼げる産業の育成に町内総生産拡大ということを目指したいと、これは基幹産業である桜葉とプラスアルファ、いま桑の葉っぱが一生懸命がんばっていますけど、桑の葉っぱの振興を図ると。そして、これへとダイレクト流通、直売所ですよ、マルシェ。この前藤井議員からありましたけれども、道の三聖苑をリニューアルしてもうちょっと大きくしたいということがあります。

そして、あとは美術館の広場を利用して、そういうダイレクト流通ができないかということ



があります。また、これをダイレクト流通にしてやるには生産体制の強化をしなければなりません。それにはやっぱり今までやってきた・・・、地籍をやって、基盤整備をやって、畑地の集約化をして、定住移住を・・・、来る人にも「こういう働く場がありますよ」ということをちゃんとしなければいかんと。そういうことをやって、6次産業化を進めていって元気にしたいなと思っています。

もう一つは、ものづくり人材の育成ということがあります。私は農協の農業祭を見ていて、松崎のあのかんきつ類としいたけとわさび、あれはほとんど金賞を松崎が全部取っていましたけれども、これを受賞した方がほとんどみんな年寄りの方で・・・、年寄りと言っては申し訳ないけれど、これが本当に若い人に継承できるようにしなきゃいかんということを考えているわけでございます。

それに、松崎町は左官職人とか菓子職人がいるわけですけど、この人たちは本当に生き生きとするような町をつくりたいなと思っているところでございます。それが「ものづくり、ひとづくり」です。

あとは「まちづかい、ものづかい」ですけども、これは松崎の魅力をいかした通年型観光による交流人口、滞留時間を増やして6次産業のいろいろの作品を、商品を町の人たちが、観光客の人たちが買っていきような形になればいいのかなと思っています。これは、「まちづかい、ものづかい」というのは本当に昔からやってきた夏型観光地と今ある人がやっているマウンテンバイクのやつがいま大流行しているわけですけども、これをうまく増やせないのかなと思っています。

そして自然体験、これは三浦小学校の棚田を中心にしてぜひやっていただきたい。それで今、なまこ壁の保存継承事業をやっていきますけれども、漆喰文化体験、あとは今、クアオルト、クアオルトと言って保養をやっていきますけれども、実は温泉を10年30万円でやったら・・・、本当は、私たちは毎日温泉に入っていますから、本当にたくさんの方が応募すると思ったら、2件しか応募しないということで非常にがっかりしたわけですけども、この温泉の良さをもう一度皆さんに知ってもらって、観光にも増やしたいと思っています。

それで、いま生活環境の方で松崎の温泉の成分は何ぞやのмонだところというふうに効きますよということを今度予算に付けていますけれども、調べてもらいます。そしてもう一つは、松崎を本当に広めてもらうために、今、自分の友人でもありますヨットマンの白石康次郎君がいますけれども、4年にいっぺんの世界大会、単独無寄港の世界大会に出る出ないで、いま最中ですけれども、ぜひ白石康次郎君を観光大使として松崎の賑わいの一つにしたいなと・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 町長、申し上げます。もう少し簡潔にやってください。

○町長（齋藤文彦君） じゃあ、社会保障を簡単に言いますけれども。やっぱりこれは健康長寿の実現と子育て支援があるわけですけれども。やっぱり四里四方に病なしと言いますけれども、本当に作っている人が見える野菜を食べていると健康だと。健康になるということは、本当に痛切に感じていますので、旬の野菜を食べて健康になると。それで、ノルディックウォークと合せて町内をウォーキング。それで、一番これは、これから人口が高齢化していくのに本当に大切なことだと思うわけですけれども社会参加です。本当に町の皆さんにいろいろなことに参加してもらって・・・、蔵らさんを見ればわかりますけれども、みんな75歳を過ぎてもピンピンしていますので、ぜひ社会参加をやっていただきたいと・・・。

それで今、花の会とか、リバーフレンドシップ、アダプトロード、伊豆文邸、かじかの湯等がありますけれども、そのようなことをやっていきたいなと思っています。

また、子育て支援になりますけれども、これは、子育て支援は本当に経済的支援と非経済的支援ということで経済的支援もやるけれども、やっぱり町全体で子どもを育てようというようなことでやっているところがございます。

この4つの柱が総合計画の中に入っていますので、これを中心に松崎らしい総合計画でやっていきたいなと思っています。

○3番（長嶋精一君） だいぶ長い話を町長がいたしました。私の話が短時間になってしまいました。

この総合計画の資料の中で、松崎版クアオルトとか、ハッカソン、突然現れるんですね。自分の言葉じゃないから、我われの腑に落ちてこないんです。そして、牛原山整備計画、私は本当にやるのかなと・・・、一度止まっているものを動き出させるというのは大変な労力とお金がいりますよ。車をみてもそうでしょう。止まっている車じゃなくてバックしている車を動かすんですよ。

この総合戦略というのは、どこかのいろんな地方で成功している事例をつなぎ合わせて、それに美しい言葉を加工して作った総合的な典型資料だと私は、いくら町長が言ったとしても、思っております。

町長、耶律楚材（やりつそざい）という人を知っていますか。知っていると思います。先ほど孔子さんの話をしたわけですから。

この方はモンゴル帝国のチンギス・ハンに仕えた政治家です。こういうことを言っております。一つの利益になると思うことを始めるよりも一つの害になっていることをやめた方がいい。

これは決して消極的な話をしているわけじゃないんです。無駄をなくしていくということは経営の哲学なんですね。無駄をなくすということは、それは利益に繋がるんです。儲かるんです。

町長は先ほど儲かるという言葉がよくないというようなことを・・・、決して儲かるという言葉は悪くないですよ。儲かるというのは信者と書きますね。信ずる人が多ければ儲かるんです。儲けていいんですよ。儲からないから私は困ったと、松崎町はこれからどうするんだと言っているんですから。

特に行政の場合は原資、源は税金です。無駄なことはやってはいけないと思っているわけです。町長、いかがですか。

- 町長（齋藤文彦君） ある人が、やった失敗、やらなかった大失敗という言葉があるということで、課長の皆さん方にも本当にやった失敗、やらなかった大失敗ということを積極果敢にやっていただきたいと思うわけで。ただ前回の議会でも言いましたけれども、松崎町には本当にいろいろな財産がいっぱいあるけれども、最高の財産は松崎町の役場の職員だと・・・。

最終的に、松崎を引っ張っていくのは役場の職員ですので、いま一騎当千の選手ばかり私も見ていないと思いますけれども、一人ずつ鍛えて一騎当千の若者として松崎町を元気にするようになればいいのではないかなと私は思っているところでございます。

- 3番（長嶋精一君） ある経営者が言うのは、積極がいつも正しいわけではないというふうにも言っております。いろんな考え方があるんですね。ただ最終的には、いいまちづくりをしなければいけない。それは具体的に細かいことからやっていかなければならないんですね。美しい言葉からは成功しない。

そこで、私は雲を掴むような計画じゃなくて、私は安心・安全面それと産業振興面、この2つに的を絞って思い切った予算、人員を投入した方がよいと思っています。先ほど町長もそれに近いことを言いましたけれども、さらにもっともっと絞り切ってやった方がいいと思う。

安心・安全面は災害対策、災害対策です。それから子育て支援。子育て支援についてはロマン券を・・・、それはそれでいいんでしょうけれども、私はもっともっとダイレクトに現金でもっと厚くやった方が私はいいと思います。

それから学校の環境整備、子育て支援のうちの学校整備ですね。トイレを洋式化に進めていくという方針を出したそうですが、これは非常にいいことだと思います。

それと災害対策、子育て支援、高齢者対策、医療福祉対策がありますけれど、高齢者対策で買い物弱者という言葉があります。町長は現場を回って、石部の東海バスのバス停を見たことがありますね、石部のバス停。そこに少しいると、松崎から東海バスに乗ってお年寄りが降り

てきます。大きな荷物を持って降りてきます。その方はおそらく三浦小学校の上の方ですね。棚田に近い三浦小学校のご自分の家まで歩いていくわけですね。大変だなと私は思うわけです。この大変だなと思う気持ちをやはり行政にいかしていかなきゃ、いくら美しい町、町といってもだめだと私は思うわけであります。

12月の定例会で、車の運転ができなくなったら買い物にも行けない、病院にも行けない町だと言っているんです。年を取ったら都会に戻ると・・・、だから地方創生・・・、こちらに来てください、こちらに来てくださいといくら言ったとしても、そういう環境が整備してなければ来るわけじゃないじゃないですか。

先ほど町長の施政方針の中で孔子の言葉がございましたね、孔子の言葉。近くにいる民が喜び幸せであるとする、遠くにいる民もそれを聞いて集まってくると・・・、近くにいる民が喜び幸せであるとする、遠くにいる民も来てくれると・・・、これはまちづくりの基本であるし、観光の基本であると思っているわけであります。これをクリアしないで、美しい町、地方創生かと私は言いたくなるわけであります。

それは産業振興面でいうと桜葉を中心とした農業。それから藤井議員も確か言ったと思います、低迷している漁業ですね。これを徹底的に掘り起こして育成する必要があると思います。もちろん資金を投入するわけです。アイデアも投入する。

それに耕作放棄地、空き家、空き店舗、民宿の復活等を併せてやると、そういうのがついてくると私は思うんですね。ぜひそれはお願いしたいと思います。町長、いかがですか。

○総務課長（山本秀樹君） 今度の総合戦略の考え方というのは、いろいろ書いてありますけれども、要は町が自立をして、子育てをする世代も安心して生活ができて、子どもが育てられるという地域をつくろうということです。いろんな産業を興すにしても儲かる構造でなければできないと、わが町で何がそのキーポイントになるかと言えば、観光の振興、要するに多くの人が来てもらって賑わいをつくるというのがいろいろ商店にしても物販にしてもそこがベースになるだろうと、やっぱり多くの人を迎い入れる体制づくりをしようというのがまず柱になるわけです。そのためには、あれもこれも、それでこっちもというような形になっているものですから、虻蜂取らずとか、あっちもこっちもということではなくて、目的は賑わいをつくるということで一点集中で考えているというふうにご理解をいただきたいと思います。

それから先ほど来、長嶋議員のお話を聞いていても、そんなに我われの方の考え方と相違するところはないと思いますので、いろんなアイデアがあれば、また直にお聞かせいただけたらと思います。

○3番（長嶋精一君） これから意見をどんどんもっていきたいと思います。ただ一つ注意したいのは、私の方でもっていても「そんなことを言ったって」というのが口癖になっているのが行政ではないかと。過去の歴史をみると「今までやっているよ」とかというのがありますから、それだけは注意してください。

総合戦略の資料では、先ほど説明がありましたとおり、重要業績評価（K P I）5年間の数値目標が示されたわけです。行政はイベントなど一つの事業が終わった後、その結果を公開することがあまりなかった。つまりイベント自体が目的化しているんですね。最近では長八生誕200年記念行事、これが典型ではないかと・・・、いつの間にか終わってしまったということです。それではだめで、しっかり公開を・・・、今後については公開してもらいたい。3か月にいっぺんは最低・・・、空き家はこうなった、耕作放棄地はこうなったといことをやはり全体に示す必要があると思います。

次に小さな3つ目で、消滅市町に入っているということですが、町長、消滅するという実感がわきますか。どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 消滅するという実感は全然わきません。私は、松崎町の一番の人口減少で・・・、何回も長嶋議員に言いますけれども、人口減少で一番悪いことは生産年齢が減ると・・・、15歳から64歳の人口が減っていく。そうすると税金を納める人が少なくなって税収が少なくなるということで、私は全町まるごとふる里自然体験学校として、松崎町をして、それで体験を通して対価を得ると。それで、その65歳以上にじゃんじゃん働いてもらって、いろいろ能力を持った人がいっぱいいるわけですから。「蔵ら」さんを見てもわかるとおり、本当に70歳を過ぎても働いているわけですから、本当に死ぬまで働いてもらわなければ、松崎町はだめだと思っています。松崎町はこういう感覚でいかないと、本当に消滅すると思います。50歳、60歳は鼻たれ小僧で、70歳から働き出すくらいな感じでいかなければ、これから松崎はだめだと思っています。

○3番（長嶋精一君） 私が聞いたかったことは、誰でもが消滅する町ということに対して実感がわいていないと思います。私もわいていません、夕張市と違うわけですから。

ただし、実感がわいてくるのを想定すると、来年から固定資産税を上げさせてもらいます。町税を上げさせてもらいます。住民税ね。国民健康保険税も上げさせてもらいます。水道料金を上げさせてもらいます。消防団員も数が減ってきて、消防の手続きとか、その応援があまりできなくなります。在の方に行きますと、どぶ掃除だとか山掃除、大変な労力があるんですね。それもできなくなりますということになると、まさに痛みを実感するわけです。そうで

すね。

そういうふうにならないように、あるいはそういうことがあったとしても、例えば、1万円の値上がりがあるかもしれない、しかし、我われの努力でそれを3000円に食い止めるよというような施策が欲しいわけです。このままいったら間違いなくあれですよ、100パーセントの値上がりになるんじゃないですか。ここであまり力んで聞きますと、時間がなくなっちゃいますから・・・。そういうことを私は言いたいですよ。だから方策を今からもう考えてもらいたいと思うわけでありまして。続けて・・・、町長、お願いします。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ言われていますけれども、これは課長が調べてくれたので、26年度国保、後期高齢者医療通院日数及び基準額調査というのがありまして、これは病院、医院、歯科医院、医局に松崎町が窓口で払っている金額は5億4000万円ある。これには共済とか社会保険分はありません。ですから、これだけのお金がなんだかんだとあるわけですから、本当に健康な町にしていければ、これだけお金が浮くわけですから、今、クアオルトがなんだかんだとっていますけれども、ノルディックウォークと座禅を合わせたことをやるとか、課長の方からちょっと説明してもらいますけれども、健康に関しては本当に力を入れてやっていきたいなと思っています。

○健康福祉課長（高木和彦君） 長嶋議員のいろいろな質問の中で、一つの会社をやっていく時には経費を抑えることが大切だということはわかっています。松崎町の場合、収入は増えることではないわけですから経費を抑えると。そういう点では、今、町長がちょっと話しましたがけれども、松崎町の方は後期高齢者と国民健康保険加入者が約60パーセントいらっしゃいます。その内の60パーセントの方でさえ窓口で払っているお金が5億4000万円ほどあります。また、これに社会保険の分ですとか、交通費を入れると7億円とかという町税よりも大きいお金を病院に納めているような実態です。

この辺を抑えることができれば可処分所得が増える。町内で消費なんかをしていただくと、そういう点でも町の維持といいますか、活性化にも繋がるんじゃないかとは思っております。

○議長（稲葉昭宏君） 長嶋君、時間延長しますか。

○3番（長嶋精一君） お願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長します。

○3番（長嶋精一君） 今、健康福祉課長の言われたとおりでと思いますけれども、それはいま始まったわけじゃなくて、もう前からそういう兆候はずっとあるわけですから、こういう総合計画ができたから、こういうことをやるというんじゃないで、どんどんいいと思ったことは、

さっきの町長の言葉じゃないけれども、積極果敢にやってもらいたいですよ。要するに、町民のためになることはやってもらいたい、健康管理ですからね。

それと、ふるさと納税に関して若干申し上げますけれども、横浜市は市税が20億円減ったということらしいです。というのは、横浜市は、ふるさと納税で返す物をそれほど積極的にやってない。ごく自然体でやっていた。そうなりますと、横浜市民は焼津に納税したり、あるいは九州に納税したりしているわけですね。当然自分のところの税は減ってくるということになります。

松崎町はそうならないように、これから我われも提案しますけれども、いろんな形で、そこそ積極果敢にやってもらいたいと思います。

それと、大きな2つ目の災害対策、水道施設ですけれども。今、水道事業の借金が、借入金が9億3000万円くらいですね、残高が。いっぺんにこれを更新するのは、どう考えても無理ということはわかりますけれども、しかし、これは計画的にやっていく必要があると思います。ぜひそれはお願いします。

それと松崎町は、非常用電源設備、あの役場の正門横に高い大きな設備がありますね。これについては、まだ設置されていない市町が多いと、あると聞いていますが、松崎町は、これは平成26年ですか、27年ですか、設置されております。これは非常にいいことだと思います。ぜひ水道施設についてもよくよく考えて、費用対効果を考えて、やるべき時にぜひやっていただきたいと思います。香川県方式なんかも取り入れて、ぜひやっていただきたいと思います。

私からの質問は以上です。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で長嶋精一君の一般質問は終わります。

午後1時まで休憩いたします。

(午前11時53分)

---